

Takeo S, Sakamoto H, Kaneko T, Tachibana M, Miura K, Varma S, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T.	Identification of novel blood-stage vaccine candidates against <i>Plasmodium falciparum</i> by high-throughput immunoscreening	ASTMH 58th annual meeting	November 18-22, 2009	Washington DC, USA
Aguiar JC, Bolton J, Wanga J, Urquhart A, Sacci JB, Limbach K, Tsuboi T, Ockenhouse C, Richie TL	Discovering novel pre-erythrocytic antigens for malaria vaccines.	ASTMH 58th annual meeting	November 18-22, 2009	Washington DC, USA
宮田 健、小濱秀泰、原國哲也、坪井敬文、 Sattabongkot Jetsumon、橘真由美、鳥居本美、松崎吾朗、新川 武	マラリアワクチン開発のための三部構成五価免疫賦活複合体	第 78 回日本寄生虫学会大会	3/27-28, 2009	東京
Sungkapong Tippawan、 Culleton Richard、矢幡一英、坪井敬文、鳥居本美、 Sattabongkot Jetsumon、金子修、Chotivanch Kesinee	Characterization of <i>Plasmodium vivax</i> subtelomeric transmembrane protein (PvSTP), a homolog of <i>P. falciparum</i> SURFIN.	第 78 回日本寄生虫学会大会	3/27-28, 2009	東京
横内ゆき、大槻均、橘 真由美、伊与久菜摘、韓銀澤、竹尾 暁、坪井敬文、鳥居本美	LDH 活性測定によるネズミマラリア原虫感染率の迅速簡便測定法の確立	第 78 回日本寄生虫学会大会	3/27-28, 2009	東京

坂本寛和、 竹尾 暁、 金子隆昌、 谷上弘恵、 松岡和弘、 橘真由美、 澤崎達也 Sattabongkot Jetsumon、 鳥居本美、 坪井敬文	高速免疫スクリーニングによる新規熱帯熱マラリア赤血球期ワクチン候補抗原の探索	第 78 回日本寄生虫学会 大会	3/27-28、2009	東京
橘真由美、Wu Yimin、入子英幸、 大槻 均、 Sattabongkot Jetsumon、竹尾 暁、鳥居本美、坪 井敬文	コムギ無細胞系を用いた抗体誘導可能な熱帯熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原 Pfs230 の作製	第 78 回日本寄生虫学会 大会	3/27-28、2009	東京
Kangwanransan Niwat、 Jenwithisuk Rachaneeporn、橘 真由美、坪井敬 文、鳥居本美	A novel ookinete surface protein with high potential of transmission-blocking vaccine candidate.	第 78 回日本寄生虫学会 大会	3/27-28、2009	東京
小濱秀泰、宮田 健、原國哲也、坪 井敬文、 Sattabongkot Jetsumon、橘真由 美、鳥居本美、松 崎吾朗、新川 武	酵母 <i>Pichia pastoris</i> 発現三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン Pvs25 の感染防御効果	第 78 回日本寄生虫学会 大会	3/27-28、2009	東京

高橋優三、 奥祐三郎、 青木 孝、 赤尾信明、 嶋田淳子、 鈴木 守、 松岡裕之、 有園直樹、 坪井敬文、 金澤 保、 由井克之、 竹内 勤	日本における寄生虫学・医動物学 教育の現況調査報告	第 78 回日本寄生虫学会 大会	3/27-28、2009	東京
加藤 晶、 竹尾 暁、 坪井 敬文	マラリア原虫メロゾイトにおける 新規 Inner Membrane Complex 関連 分子の探索	第 17 回分子寄生虫学ワ ークショップ	8/6-9、2009	草津町
竹尾 暁、 坪井 敬	網羅と決め打ち：コムギ胚芽無細 胞系組換えタンパク質合成法を用 いた、マラリア原虫赤血球期発現 分子の解析	第 17 回分子寄生虫学ワ ークショップ	8/6-9、2009	草津町
金子 隆昌、 坂本 寛和、 竹尾 暁、 坪井 敬文	マラリア原虫に対する増殖阻害率 を測定済みの抗体を用いた新規ワ クチン候補抗原の探索	第 17 回分子寄生虫学ワ ークショップ	8/6-9、2009	草津町
埜本 竜宏、 竹尾 暁、 坪井 敬文	熱帯熱マラリア原虫メロゾイトに おける新規抗原タンパク質の性状 解析	第 17 回分子寄生虫学ワ ークショップ	8/6-9、2009	草津町
北村 圭、 熊谷 貴、 Bethel Bentum K、 三田村俊秀、 坪井敬文、 朝日博子、 太田伸生	熱帯熱マラリア原虫 Plasmodium falciparum におけるオートファジ ーの役割	第 17 回分子寄生虫学ワ ークショッ	8/6-9、2009	草津町

佐野 桂、 畑 昌幸、 坪井敬文、 上田貴志、 由比良子、 伊藤喜重、 中野明彦、 北 潔、 室伏きみ子、 佐々木成江	熱帯熱マラリア原虫ミトコンドリア DNA polymerase の解析	第 8 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム	10/9-10、2009	豊中市
大槻 均、 石野智子、 金子 修、 橘 真由美、 坪井敬文、 鳥居本美	ネズミマラリア原虫赤血球結合タンパク(EBL)の細胞内輸送ドメインの機能解析	第 8 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム	10/9-10、2009	豊中市
北村 圭、 熊谷 貴、 Bethel Bentum K、 三田村俊秀、 坪井敬文、 太田伸生	熱帯熱マラリア原虫のオートファジー関連分子	第 8 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム	10/9-10、2009	豊中市
Akira Kaneko、 Luis Fernando Chaves、George Taleo、Hedvig Perlmann、Hideaki Eto、Satoru Takeo、Takafumi Tsuboi、Chris Drakeley、 Kazuyuki Tanabe、 Marita Troye-Blomberg	<i>Plasmodium vivax</i> resurgence a decade after malaria elimination on Aneityum island.	第 8 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム	10/9-10、2009	豊中市

竹尾 暁、 坂本寛和、 金子隆昌、 埜本竜宏、 Jetsumon Sattabongkot、 坪井敬文	熱帯熱マラリア原虫の赤血球期分子：免疫スクリーニングから新規抗原分子の解析	第8回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム	10/9-10、2009	豊中市
竹尾 暁、 坂本寛和、 金子隆昌、 坪井敬文	赤血球期マラリアワクチン候補抗原分子を探索する免疫スクリーニング	第32回日本分子生物学会年会	12/9-12、2009	横浜
大槻 均、 金子 修、 Amporn Thongkukiatkul、 橘 真由美、 入子 英幸、 竹尾 暁、 坪井 敬文、 鳥居 本美	マラリア原虫の赤血球侵入に必要な分子(EBL)の細胞内移行と病原性を決定する部位の同定	第32回日本分子生物学会年会	12/9-12、2009	横浜

学会発表に関する一覧表 (平成22年度)

執筆者氏名	学会発表名	学会名	開催年	開催地
プロジェクト1：細菌				
寺嶋 淳、 伊豫田淳、 泉谷秀昌、 三戸部治郎、 石原明子、 大西 真	腸管出血性大腸菌の分子疫学と広 域ネットワーク	第59回日本感染症学会 東日本地方会学術集会	2010年	東京
寺嶋 淳、 伊豫田淳、 泉谷秀昌、 三戸部治郎、 石原明子、 大西 真	最近の腸管出血性大腸菌感染症の 動向について	第14回腸管出血性大腸 菌感染症シンポジウム	2010年	宮崎市
寺嶋 淳、 伊豫田淳、 泉谷秀昌、 三戸部治郎、 石原明子、 渡辺治雄	Molecular epidemiological investigation of Enterohaemorrhagic Escherichia coli infection in Japan; Perspectives and problems. 腸 管出血性大腸菌感染症の分子疫学 研究の現状と課題、	第83回日本細菌学会総 会	2011年3月	横浜市
三戸部治郎		US-Japan Cooperative Medical Science Program. 45 th Conference. Cholera and Other Bacterial Enteric Infections.	2010年12月 5-8日	京都
Osawa, R	Novel PCR-based DNA fingerprinting, using genomic variability between repetitive sequences of toxigenic <i>Vibrio cholerae</i> O1 El Tor and O139 strains	The international conference on food security during challenging times, University Putra in Malaysia	July, 2010	University Putra Malaysia

山口博史, 井口純, 森田昌知, 勢戸和子, 渡辺治雄, 大澤朗	コレラ毒素産生性 <i>Vibrio cholerae</i> エルトール O1, O139 株の Integron Island を標的とした PCR-RFLP 解 析	第 83 回日本細菌学会総 会	2010 年 3 月	
---	--	--------------------	------------	--

プロジェクト 2 : ウイルス (デング熱)

加藤文博、 <u>田島</u> 茂、山口幸恵、小 滝徹、司馬肇、細 野邦昭、高崎智 彦、倉根一郎	3'NTR 内に変異を有する日本脳 炎ウイルス変異体の in vitro にお ける増殖性および病原性解析	第 45 回日本脳炎ウイル ス生態学研究会	2010 年 5 月	東京
山口幸恵、 <u>田島</u> 茂、小滝徹、澤辺 京子、渡邊治雄、 高崎智彦、倉根一 郎	日本脳炎ウイルス E 蛋白質の 1 ア ミノ酸置換 (S123N) がウイルス 増殖に及ぼす影響	第 45 回日本脳炎ウイル ス生態学研究会	2010 年 5 月	東京
Tajima, S., Yamaguchi, Y., Kato, F., Takasaki, T., and Kurane, I.	Effects of single amino acid substitutions at position 123 in the Japanese encephalitis virus E protein on its growth rate in vitro and pathogenicity in mice.	1 st Asia Pacific Workshop on Neurovirology.	July 15-17, 2010.	Seoul, South Korea.
<u>田島</u> 茂、高崎智 彦、倉根一郎	in vitro におけるデング 1 型ウイル スおよび日本脳炎ウイルスの増殖 性および感染細胞側応答の比較	第 58 回日本ウイルス学 会学術集会	2010 年 11 月	徳島
加藤文博、 <u>田島</u> 茂、司馬肇、細野 邦昭、高崎智彦、 倉根一郎	フラビウイルスレポーターレプリ コンの構築	第 58 回日本ウイルス学 会学術集会	2010 年 11 月	徳島
山口幸恵、 <u>田島</u> 茂、小滝徹、澤辺 京子、渡邊治雄、 高崎智彦、倉根一 郎	ウイルス性状における日本脳炎ウ イルス E 蛋白質の 1 アミノ酸置換 の影響	第 58 回日本ウイルス学 会学術集会	2010 年 11 月	徳島
小滝徹、林昌宏、 <u>田島</u> 茂、高崎智 彦、倉根一郎	日本脳炎ウイルス国内分離株の遺 伝子解析(2005~2009)	第 58 回日本ウイルス学 会学術集会	2010年11月	徳島

<u>Lim, C. K.</u> , Takasaki, T., Moi, M. L., Omatsu, T., Kotaki, A., Chua, K. B., Kurane, I.	Molecular diagnosis and analysis of Chikungunya virus in Malaysia.	第8回日中国際ウイル ス学会	2010	ハルピン, 中国
Takasaki, T., Moi, M. L., <u>Lim</u> <u>C. K.</u> , Kurane, I.	Imported Chikungunya fever and dengue fever in JAPAN.	第7回日台ワクチンお よび旅行医学シンポジ ウム.	2010	台北, 台湾
<u>Lim, C. K.</u> , Takasaki, T., Moi, M. L., Omatsu, T., Kotaki, A., Chua, K. B., Kurane, I.	Molecular diagnosis and analysis of Chikungunya virus in Malaysia.	第9回国際プラス鎖 RNA ウイルス学会,	2010	アトラン タ, アメ リカ
<u>林 昌宏</u> , 藤本 嗣人, 小長谷昌 美, モイ メン リン, 小滝 徹, 倉根一郎, 高崎 智彦.	近年のチクングニア熱の流行と 迅速診断法の検討.	第58回日本ウイルス学 会学術集会	2010	徳島
青山幾子, 弓指 孝博, 加瀬哲男, 高橋和郎, 高崎 智彦, <u>林 昌宏</u> , 倉根一郎.	大阪府における Dengue 熱・チクン グニア熱の検査体制.	衛生微生物技術協議会 第31回研究会	2010	鹿児島
高崎智彦, 小滝 徹, 田島 茂, <u>林</u> <u>昌宏</u> , モイ メ ンリン, 倉根一 郎.	輸入 Dengue 熱・チクングニア熱 検査・診断状況 (2008-2010).	衛生微生物技術協議会 第31回研究会,	2010	鹿児島
<u>林 昌宏</u> , 高崎 智彦, 倉根一郎.	チクングニア熱の流行状況と実 験室診断法.	衛生微生物技術協議会 第31回研究会,	2010	鹿児島

林 昌宏, 高崎智彦, モイメンリン, 大松勉, 倉根一郎.	近年のチクングニア熱流行におけるチクングニア熱疑い患者血清の病原体および血清学的解析.	第 84 回日本感染症学会 総会・学術講演会	2010	京都
江下優樹, 高崎智彦, 林 昌宏, Srisawat, R., Komalamisra, N., Rongsriyam, Y., 湯 偉峰, 青野裕士, 牧野芳大, 成田弘成, 牛島廣治, 倉根一郎.	タイ国産ネッタイシマカのチクングニアウイルス感受性.	第 62 回日本衛生動物学会大会	2010	鹿児島
高崎智彦, 林 昌宏.	拡大するチクングニア熱の現状と臨床.	平成 21 年度希少感染症診断技術研修会,	2010	東京
林 昌宏	チクングニア感染症の診断法.	平成 21 年度希少感染症診断技術研修会	2010	東京
青山幾子, 弓指孝博, 高崎智彦, 林昌宏, 加瀬哲男, 高橋和郎	日本脳炎ワクチン接種によって獲得されるウエストナイルウイルスに対する交差中和抗体の検討.	第 58 回日本ウイルス学会 学術集会	2010 年 10 月	徳島
プロジェクト 3 : ウイルス (高病原体 H5N1 鳥インフルエンザ)				
Naoko Kono, Yuichi Harada, Takato Odagiri, Masato Tashiro and Shigeyuki Itamura.	Inter-laboratory reproducibility of single-radial-immunodiffusion assay for measuring HA content in the influenza vaccine during 9 year seasons from 2001 to 2009 in Japan.	Options for the control of influenza VII,	Sept.3-7,2010.	Hong Kong
プロジェクト 4 : ウイルス (麻疹)				
關 文緒, 染谷健二, 田原 舞乃, 中津 祐一郎, 駒瀬 勝啓, 竹田 誠,	麻疹ウイルス H タンパク質アミノ酸 546 番目のグリシン変異における上皮細胞への感染性および機能変化	第 58 回日本ウイルス学会学術集会,	2010 年 11 月 7 日~9 日	徳島

扇本 真治、 Bhatta Luna、加藤 誠一、綾田 稔、駒瀬 勝啓、竹内 薫、庵原 俊昭、小倉 壽	麻疹ウイルスワクチン株 AIK-C、FF-8、CAM-70 の効率的なウイルス RNA 合成と AIK-C P 蛋白による感染性ウイルス産生の抑制	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
田原 舞乃、駒瀬 勝啓、染谷 健二、關 文緒、中津 祐一郎、藤井 薫、柳 雄介、竹田 誠	麻疹ウイルス主要表面抗原 H タンパク質の抗原性変化、第 58 回日本ウイルス学会学術集会	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
大槻 紀之、阿保 均、久保田 耐、森 嘉生、海野 幸子、岡本 貴世子、竹田 誠、駒瀬 勝啓	風疹ウイルスによるモルモットでの抗体誘導は温度感受性と一致するわけではない	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
岡本 貴世子、阿保 均、大槻 紀之、森 嘉生、竹田 誠、駒瀬 勝啓	風疹ウイルス遺伝子検出による実験室診断技術の改良	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
中津 祐一郎、鈴木 忠樹、馬 学旻、關 文緒、駒瀬 勝啓、柳 雄介、竹田 誠	イメージング技術を用いた麻疹ウイルス L タンパク質の細胞内動態の解析	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
木所 稔、駒瀬 勝啓、Tuul Renchin	モンゴル国内で流行するムンプスウイルスの分子系統学的解析	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
澤田 成史、駒瀬 勝啓、中山 哲夫	RS ウイルス外殻タンパクを発現するキメラ麻疹ウイルスの免疫能の検討、	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010 年 11 月 7 日～9 日	徳島
澤田 成史、駒瀬 勝啓、中山 哲夫	RS ウイルスの外殻タンパクを発現するキメラ麻疹ウイルスの免疫原性の検討	第 14 回日本ワクチン学会学術集会	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京

田原 舞乃、駒瀬 勝啓、染谷 健 二、関 文緒、中 津 祐一郎、藤井 薫、柳 雄介、竹 田 誠	麻疹ウイルスの抗原性変化	第 14 回日本ワクチン学 会学術集会	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京
扇本 真治、伊藤 千慧、Bhatta Luna、加藤 誠 一、綾田 稔、駒 瀬 勝啓、竹内 薫、庵原 俊昭、 小倉 壽	麻疹ウイルスワクチン株 AIK-C、 FF-8、CAM-70 の効率的なウイルス RNA 合成と AIK-C P 蛋白による感染 性ウイルス産生の抑制	第 14 回日本ワクチン学 会学術集会、	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京
大槻 紀之、阿保 均、久保田 耐、 森 嘉生、海野 幸子、岡本 貴世 子、竹田 誠、駒 瀬 勝啓	T0-336 風疹ワクチン株及びその関 連株における温度感受性とモルモ ットにおける抗体誘導能の比較、	第 14 回日本ワクチン学 会学術集会	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京
阿保 均、森 嘉 生、岡本 貴世 子、大槻 紀之、 竹田 誠、駒瀬 勝啓	風疹ウイルス遺伝子検出 RT-LAMP 法の改良	第 14 回日本ワクチン学 会学術集会	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京
木所 稔、駒瀬 勝啓、Tuul Renchin	東アジアで流行するムンプスウイ ルスの分子系統学的解析	第 14 回日本ワクチン学 会学術集会	2010 年 12 月 11 日～12 日	九段会館 東京

プロジェクト 5 : ウイルス (狂犬病ウイルス)

Sato G., Inoue S., Yamada A., Ito F.-H., Silva M. L.-C.-R., Itou T., Sakai T.	The rabies viral RNA genomes selectively shifted in quasispecies population after serial passages of street virus in mouse.	44 th joint working conferece on viral diseases. US-Japan Cooperative Medical Science Program.	28-30 June, 2010.	Sapporo, Japan
--	---	---	----------------------	-------------------

杉浦尚子、宇田晶彦、小嶋大亮、野口章、奥谷晶子、加来義浩、朴天鎬、山田章雄、井上智	狂犬病ウイルス (CVS-11) の末梢感染により麻痺症状を示した C57BL/6J マウスの中樞神経組織における宿主遺伝子のマイクロアレイ解析。	第 150 回日本獣医学会学術集会	2010、9 月	帯広畜産大学、北海道
小嶋大亮、朴天鎬、石田誠、小原慶子、井上謙一、畑井仁、小山田敏文、野口章、井上智	狂犬病ウイルス (CVS-11 株) を脳内接種した Macaque 属サルに脳に関する病理学的研究。	第 150 回日本獣医学会学術集会、	2010、9 月	帯広畜産大学、北海道
佐藤豪、井上智、Ito Fumio、Silva Maria、伊藤琢也、酒井健夫、山田章雄。	マウスを用いた継代で見られたブラジル狂犬病ウイルスゲノムの選択。	第 58 回日本ウイルス学会学術集会	2010、11 月	徳島
杉浦尚子、宇田晶彦、小嶋大亮、野口章、奥谷晶子、加来義浩、朴天鎬、山田章雄、井上智。	狂犬病ウイルス (CVS-11 株) を末梢感染させた C57BL/6J マウスの脳脊髄における免疫関連遺伝子のマイクロアレイ解析。	第 58 回日本ウイルス学会学術集会、	2010、11 月	徳島
プロジェクト 6 : 原虫 (マラリア)				
Ohmae H, Bito N, Nakagawa N, Fueda T, Ishikawa H.	Risk analysis of vivax airport malaria in Japan	The 8th international conference on travel medicine in Asia and the Pacific	November 2010	奈良

<p>大前比呂思, 中澤港, Suraj Eka 伊藤誠, 長岡史晃, 木村英作, 亀井喜世子, 山内太郎, Bernard Bakote' e</p>	<p>ソロモン諸島におけるマラ リア疫学調査への尿診断法 の応用-2</p>	<p>第 79 回日本寄生虫学会</p>	<p>2010 年 5 月</p>	<p>旭川</p>
<p>中野由美子, 美田敏宏, 中曽根英子, 田邊和祐</p>	<p>アーカイブ標本による熱帯熱マラ リア原虫における薬剤耐性遺伝子 型の同定. (Genetic identification of drug resistance in <i>Plasmodium falciparum</i> from Africa using archive blood smears.)</p>	<p>第 79 回日本寄生虫学会 大会</p>	<p>2010 年 5 月 20-21 日</p>	<p>旭川</p>
<p>Yumiko Saito-Nakano</p>	<p>Genetic identification of drug resistance in <i>Plasmodium falciparum</i> using archive blood smears.</p>	<p>The 7th Taiwan-Japan Symposium on Immunization and Travel Medicine.</p>	<p>2010 Sep 9-10</p>	<p>Taiwan, Taipei</p>
<p>今西望、高井憲 治、金京純、津 田良夫、小林睦 生、糸山亨、沢 辺京子。</p>	<p>釧路湿原周辺に生息するハマダ ラカ成虫の形態的特徴</p>	<p>第 62 回日本衛生動物学 会東日本支部大会、</p>	<p>2010. 10. 16</p>	<p>千葉県印 西市</p>
<p>Kazuyuki Tanabe, Toshihiro Mita and Francois Balloux.</p>	<p>Ancient out-of-Africa migration of <i>Plasmodium falciparum</i> along with modern humans.</p>	<p>Parasites to Prevention.</p>	<p>2010.10.21</p>	<p>Edinburgh</p>
<p>S. B. A. Andrabi, 田原美智留, 青沼 宏佳, 遠山知子, 田邊和祐, 野崎智 義, 永宗喜三郎,</p>	<p>トキソプラズマが産生する植物ホル モン, サイトカイニンの原虫増殖に おける影響,</p>	<p>第 9 回分子寄生虫・マラリ ア研究フォーラム</p>	<p>2010.10.9</p>	<p>長崎</p>

橘真一郎, 川合覚 後藤直久・中村昇 太・有末伸子, 片 貝祐子, 本間一, Palacpac Nirianne, 澤井裕美, 東岸任 弘, 北潔, 保富康 宏, 堀井俊宏, 安 永照雄, 田邊和 祐..	次世代シーケンサーを利用したサル マラリア原虫 <i>Plasmodium cynomolgi</i> の新規ゲノム構築と比較ゲノム解 析,	第9回分子寄生虫・マラリ ア研究フォーラム	2010.10.9	長崎
彦坂健児・中井 裕・渡邊洋一・橘 真一郎・有末伸 子・Palacpac Nirianne・遠山知 子・本間一・堀井 俊宏・北潔・田邊 和祐	<i>Eimeria tenella</i> のミトコンドリアゲ ノムはコンカテマー構造をとる,	第9回分子寄生虫・マラリ ア研究フォーラム	2010.10.8	長崎
有末伸子・Nirianne M. Q. Palacpac・川 合 覚・平井 誠・ 田邊和祐・堀井俊 宏,	マラリア原虫 SERA 遺伝子ファミリ ーの系統特異的な進化,	第9回分子寄生虫・マラリ ア研究フォーラム	2010.10.8	長崎
K. Tanabe and T. Mita.	Intimate association of evolutionary history of the human malaria parasite, <i>Plasmodium falciparum</i> , with ancient demography of modern humans.	The 10 th Awaji International Forum on Infection and Immunity.	2010.9.10.	淡路島
N. Arisue, N. M. Q. Palacpac, S. Kawai, M. Hirai, K. Tanabe, and T. Horii.	The SERA gene family from several <i>Plasmodium</i> species: Picking important clues for the evolutionary puzzle of this gene family.	The 10 th Awaji International Forum on Infection and Immunity.	2010.9.9.	淡路島

K. Hikosaka, Y. Nakai, Y. Watanabe, S. Tachibana, N. Arisue, N. Marie Q. Palacpac, T. Toyama, H. Honma, T. Horii, K. Kita, K Tanabe.	Concatemer mitochondrial genome of the coccidian parasite <i>Eimeria tenella</i> .	The 10 th Awaji International Forum on Infection and Immunity.	2010.9.9	淡路島
S. Tachibana, S. Kawai, N. Goto, S. Nakamura, N. Arisue, Y. Katakai, H. Honma, N. Palacpac, H. Sawai, T. Tougan, K. Kita, Y. Yasutomi, T. Horii, T. Yasunaga, K. Tanabe.	Genome sequencing of the <i>P. vivax</i> -related monkey malaria parasite, <i>P. cynomolgi</i> and the comparative genomic analysis.	The 10 th Awaji International Forum on Infection and Immunity.	2010.9.9	淡路島
S. Kawai, H. Iseki, N. Takahashi, M. Hirai, K. Tanabe, N. Yokoyama, I. Igarashi.	A novel molecular diagnostic tool for zoonotic simian malaria parasite <i>Plasmodium knowlesi</i> infection.	XIIth International Congress of Parasitology,	2010.8.15	Melborune
早川敏之, 橘真一郎, 有末伸子, 彦坂健児, 澤井裕美, 田邊和祐.	現生マラリア原虫の起源での急速な多様化 (マラリアビッグバン)	第12回日本進化学会	2010.8.2	東京
N. Arisue, Tetsuo Hashimoto, H. Mitsui, A. Kaneko, M. Hasegawa, K. Tanabe, T., Horii.	Comparative analyses of the apicoplast genomes from nine <i>Plasmodium</i> species.	The 18th meeting of the International society for evolutionary protistology,	2010.7.6.	Kanazawa, Ishikawa, Japan,

田邊和祐, 美田敏宏, Nirianne Palacpac, 金子明, 堀部舜, 澤井裕美, 先濱直子, 大前比呂思, 中村正聡, 平山謙二, 堀井俊宏, 岸野洋久,	熱帯熱マラリア原虫の遺伝的多様性は東アフリカからの地理的距離によって決定される,	第79回日本寄生虫学会大会,	2010.5.20	
有末 伸子, Nirianne M. Q. Palacpac, 田邊 和祐, 堀井 俊宏	マラリア原虫 <i>sera</i> 遺伝子ファミリーの多型解析,	第79回日本寄生虫学会大会,	2010.5.20.	
彦坂健児, 渡邊洋一, 辻尚利, 遠山知子, 有末伸子, 北潔, 堀井俊宏, 中井裕, 五十嵐郁男, 田邊和祐	Apicomplexa 生物群におけるミトコンドリアゲノムの進化と多様性,	第79回日本寄生虫学会大会	2010.5.20	
橘真一郎, 川合 覚, 後藤直久, 中村昇太, 片貝祐子, 澤井裕美, 東岸任弘, 北潔, 保富康宏, 堀井俊宏, 安永照雄, 田邊和祐,	次世代シーケンサーによる三日熱マラリア原虫近縁サルマラリア原虫 <i>P. cynomolgi</i> のゲノム解読	第79回日本寄生虫学会大会,	2010.5.20	
美田 敏宏, 塚原高広, 高橋 延之, 遠藤 弘良, 田邊和祐,	熱帯熱マラリア原虫はどのような順番で <i>dhps</i> 遺伝子に変異を蓄積していくか,	第79回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 20	

金子 明, Taleo George, Chaves Luis F., Perlmann Hedvig, 江藤 秀顕, 竹尾 暁, 橘 真一郎, Troye-Blomberg Marita, 坪井 敬文, Drakeley Chris, 田邊 和祐,	島嶼マラリア根絶 10 年後の三日熱マラリア再燃	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010.5.20	
中野 由美子, 美田 敏宏, 中曽根英子, 田邊 和祐	アーカイブ標本による熱帯熱マラリア原虫における薬剤耐性遺伝子型の同定	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 20	
カレトン リチャード, 津守 陽子, マセコ ヌデウンガ, 砂原 俊彦, 五十棲 理恵, 上村 春樹, 金子 修, 田邊 和祐,	Selection for drug resistance in malaria parasites differs between urban and suburban areas of Brazzaville, Republic of Congo,	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 21	
青沼 宏佳, 遠山 知子, 田原 美智留, Andrabi Syed Bilal Ahmad, 田邊 和祐, 永宗 喜三郎,	植物ホルモンジベレリン生合成阻害剤はトキソプラズマの増殖を抑制する,	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 21	
川合 覚, 片貝 祐子, 保富 康宏, 田邊 和祐,	マカク属サル種間にみられるサル・マラリア感染感受性の比較	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 21	
田原 美智留, 青沼 宏佳, 遠山 知子, 田邊 和祐, 野崎 智義, 永宗 喜三郎,	植物ホルモンサイトカイニンのトキソプラズマに及ぼす影響,	第 79 回日本寄生虫学会大会	2010. 5. 21	

Tomoko Toyama, Kisaburo Nagamune, Hiroshi Kawaide, Toshihiro Horii, Kazuyuki Tanabe,	Inhibitors of gibberellin, a plant hormone, induce swelling and rupture of intraerythrocytic <i>Plasmodium falciparum</i> .	第79回日本寄生虫学会 大会	2010.5.21	
Takeo S, Sakamoto H, Kaneko T, Tachibana M, Miura K, Varma S, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T.	Identification of novel blood-stage vaccine candidates against <i>Plasmodium falciparum</i> by high-throughput immunoscreening.	Adaptive and Innate Immune Responses to Neglected Tropical Diseases	January 9-11, 2010	San Diego, USA,
Miura K, Takeo S, Sakamoto H, Kaneko T, Varma S, Torii M, Sirima SB, Tsuboi T	Identification of <i>Plasmodium falciparum</i> blood-stage potential vaccine candidates: high-throughput immunoscreening approach with Burkina Faso children sera.	Adaptive and Innate Immune Responses to Neglected Tropical Diseases	January 9-11, 2010	San Diego, USA,
Takeo S, Sawasaki T, Torii M, Sattabongkot J, Endo Y, Tsuboi T.	Functional production of malarial parasites' proteins with wheat germ cell-free system.	Keystone Symposium, Structural Genomics: Expanding the Horizons of Structural Biology,	January 8-13, 2010.	Breckenridge, USA
Tsuboi T, Tachibana M, Takeo S, Sattabongkot J, Wu Y, Torii M.	Sexual stage parasites and transmission-blocking antibodies	Keystone Symposium, Malaria: New Approaches to Understanding Host-Parasite Interactions,	April 11-16, 2010	Copper Mountain, USA
Chen JH, Jung JW, Wang Y, Lu F, Ha KS, Tsuboi T, Han ET.	Evaluation of putative immunogenic proteins from vivax malaria blood stage by high-throughput screening assays.	Keystone Symposium, Malaria: New Approaches to Understanding Host-Parasite Interactions,	April 11-16, 2010	Copper Mountain, USA

Tsuboi T, Tachibana M, Takeo S, Sattabongkot J, Wu Y, Torii M. (Invited speaker)	Wheat germ cell-free system-expressed Pfs230 is an effective transmission-blocking vaccine candidate antigen.	12th International Congress of Parasitology	August 16-20, 2010.	Melbourne, Australia,
Miura T, Takeo S, Otsuki H, Torii M, Tsuboi T.	Erythrocyte proteome screening for interaction partners of malarial merozoite RhopH complex.	12th International Congress of Parasitology	August 16-20, 2010	Melbourne, Australia,
Ito D, Han ET, Takeo S, Thongkuiatkul A, Otsuki H, Torii M, Tsuboi T	Characterization of putative rhoptry neck protein 3 (PfRON3) in <i>Plasmodium falciparum</i> merozoite.	12th International Congress of Parasitolog	August 16-20, 2010	Melbourne, Australia
Arumugam TU, Takeo S, Thonkuiatkul A, Miura K, Otsuki H, Zhou H, Long CA, Thompson J, Healer J, Crabb B, Cowman A, Torii M, Tsuboi T.	A new Pf merozoite micronemal protein is a novel blood-stage vaccine candidate antigen.	12th International Congress of Parasitology,	August 16-20, 2010	Melbourne, Australia
Sakamoto H, Takeo S, Kaneko T, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T.	A novel blood-stage malaria vaccine candidate with human erythrocyte binding capacity.	The 10th Awaji International Forum on Infection and Immunity,	September 7-10, 2010	Awaji, Japan.

rumugam TU, Takeo S, Thonkukiatkul A, Miura K, Otsuki H, Zhou H, Long CA, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T.	Wheat germ cell-free system facilitated the identification of a novel malaria vaccine candidate.	The 10th Awaji International Forum on Infection and Immunity,	September 7-10, 2010	Awaji, Japan.
Miura T, Takeo S, Otsuki H, Sawasaki T, Endo Y, Torii M, Tsuboi T.	RhopH complex from mouse malaria parasite interacts with erythrocyte calmyrin.	ASTMH 59th annual meeting,	November 3-7, 2010	Atlanta, USA,
Arumugam TU, Takeo S, Thonkukiatkul A, Miura K, Otsuki H, Zhou H, Long CA, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T.	Identification of a novel blood stage vaccine candidate for <i>Plasmodium falciparum</i> .	ASTMH 59th annual meeting,	November 3-7, 2010	Atlanta, USA
坪井 敬文 (シン ポジスト)	マラリアワクチン研究の最前線- 我が国発の技術による国際貢献	厚生労働省主催、平成 21 年度 地球規模保健課題 推進研究事業シンポジウ ム	3/30, 2010	東京
原國哲也、宮田 健、坪井敬文、 Sattabongkot Jetsumon、橋 真 由美、鳥居本美、 李 長春、渡部久 実、松崎吾朗、新 川 武	酵母 <i>Pichia pastoris</i> 発現ネズミマラリ アメロゾイト表面蛋白質 MSP1-19 の ワクチン効果	第 79 回日本寄生虫学会 大会	5/20-21、 2010	旭川市